

最優秀賞に沖縄高専 中区でモノ・コトづくり審査 高校生がアイデア提案

静岡理工科大と浜松市は24日、生活用品の改良やビジネスプランの発案など高校生から独自のアイデアを募る



表彰を受ける沖縄高専の前田さん(右)ら
＝浜松市中区の地域情報センター

「高校生モノづくり・コトづくりプランコンテスト2018」(静岡新聞社・静岡放送後援)の最終審査会と表彰式を同市中区の地域情報センターで開いた。書類審査を通過した県内外の4校から4グループ1個人がプレゼンテーションを行い、沖縄工業高専(沖縄県)が最優秀賞の市長賞に選ばれた。

同校は人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット化)を活用し、沖縄のサンゴの健康度や海中環境を自動的に収集・解析す

る保全活動を提案した。審査では先進性のある内容や発想力が評

価された。同校1年の前田光太さん(16)は「先生の協力を得ながら賞を取ることができてうれしい。今後は実験に取り組み、形にしていきたい」と話した。同コンテストには全国の高校など34校から246件の応募があった。最終審査では清水次郎長をイメージしたあめの商品化戦略や天竜浜名湖鉄道を活用した移動カフェなど5つのプランが提案された。